北九州市こどもプランの令和7年度評価

資料1

	No.	指標	詳細	基準 年度	基準 基準値	目標（R11年度）	直近値（R8アンケート結果・R7事業実績等）	直近値ー基準値	直近値ー目標値（目標が数値の場合）	目標に対する達成状況	令和7年度実績
KPI	1	「こどもまんなか社会の実現に向かっていると感じる」者の割合 （向かっている＋どちらかというと向かっている）	就学前児童～中高生の保護者、18～39歳本人	R6	36.6 %	70.0%	35.2 %	▲ 1.4 P	▲ 34.8 P	未達成	[指標に対する実績] ・「こどもまんなか社会の実現に向かっていると感じる」者の割合は、基準値より減少しており、目標値を34.8P下回っている状況にある。 ・「子育てしやすいまちと思う」子育て当事者の割合は、全区分で基準値より微減しており、目標達成に至っていないが、80%を超える高い水準を維持している。 ・「子育てが楽しいと感じている」子育て当事者の割合は、各区分で基準値より微増または微減しているものの、概ね横ばいで9割近い高い水準を維持している。 ・「子育てを支えてくれる人（家族含む）または場所が、いる/ある」子育て当事者の割合は、各区分で基準値より増加または横ばいとなっており、目標達成に向けて概ね順調な状況である。 ・「生活に満足している」こどもの割合は、基準値より5.5P増加しており、目標を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・こどもまんなかcityの合言葉「こどもまんなかスイッチ」を様々な媒体やイベントで周知したほか、こどもや子育てにやさしい取組を行う企業や団体を募り、その活動を市全体へ広げる「こどもまん“なかま”」を始動した。 ・市独自の取組として、経済的負担の大きい多子世帯の子育てを支援するため、生計を同一にしているこどもで、きょうだい児の年齢に関わらず、第2子以降の保育料を無償化。令和7年度からは「幼稚園の2歳児保育における保育の必要性があるこども」を新たに対象とした。 ・保育所等に通っていない6か月～満3歳未満のこどもを対象に月10時間までの範囲で、誰でも利用できる「こども誰でも通園制度」を13か所で実施した。 ・放課後児童クラブでは、学校の長期休暇中の利用者支援を目的に、開所時間の早期化（8時前開所）を進めるほか、令和7年度にはアプリを活用して民間事業者のお弁当を注文・配達する仕組みを全区に展開した。 ・「子育てを手伝ってほしい方」と「子育てを手伝ってくださる方」による相互援助活動「シン・子育てファミリー・サポート事業」を推進。令和7年度は、子育てと仕事の両立で負担が大きくなる育休復帰前後の期間をサポートするため、対象期間の利用料金を無料とし、さらに使用しやすい仕組みにグレードアップした。 ・小中高校生が市の施策についてワークショップを実施し、市長に提言を行う「みらい政策委員会」を開催。こどもからの提言を踏まえ、公園のトイレの改修や通学路の整備、自習室マップの作成、学校体育館へのエアコン設置に向けた動きなどが進んだ。
	2	「子育てしやすいまちと思う」子育て当事者の割合 （よく思う＋時々そう思う）	就学前児童保護者	R6	91.1 %	増加	88.7 %	▲ 2.4 P	ー	未達成	
			小学生保護者		88.5 %	90%以上	86.2 %	▲ 2.3 P	▲ 3.8 P	未達成	
			中高生保護者		82.6 %	90%以上	82.1 %	▲ 0.5 P	▲ 7.9 P	未達成	
	3	「子育てが楽しいと感じている」子育て当事者の割合 （非常に感じる＋やや感じる）	就学前児童保護者	R5	97.1 %	増加	96.0 %	▲ 1.1 P	ー	未達成	
			小学生保護者		94.0 %	増加	94.2 %	0.2 P	ー	達成	
			中高生保護者		90.5 %	増加	89.3 %	▲ 1.2 P	ー	未達成	
	4	「子育てを支えてくれる人（家族含む）または場所が、いる/ある」子育て当事者の割合	就学前児童保護者	R6	97.5 %	増加	97.7 %	0.2 P	ー	達成	
			小学生保護者		96.7 %	増加	96.7 %	0.0 P	ー	達成	
			中高生保護者		94.0 %	増加	95.6 %	1.6 P	ー	達成	
	5	「生活に満足している」こどもの割合 （満足している＋どちらかと言えば満足している）	中高生	R5	83.6 %	増加	89.1 %	5.5 P	ー	達成	
1	【基本施策1】 こどもの主体性を育み、子育てを社会全体で応援する環境づくり										
	1	「自分の意見を周りの大人が聞いてくれると感じる」こどもの割合 （きちんと聞いてくれる＋どちらかと言えば聞いてくれる）	中高生	R5	84.6 %	増加	89.6 %	5.0 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・「自分の意見を周りの大人が聞いてくれると感じる」こどもの割合及び「周りに自分の意見を伝えられていると思う」こどもの割合は、基準値より5P以上増加しており、目標を達成している。 ・「子育てについて悩みや不安を感じている」子育て当事者の割合について、中高生保護者は基準値より6.6P減少しており、目標を達成している一方、就学前児童及び小学生保護者は、基準値より約10P増加しており、目標達成に至っていない状況である。 ・なお、悩みの内容としては、「こどもを叱りすぎているような気がすること」や「こどもの教育に関すること」の回答が多く見られた。 [基本施策の主な取組実績] ・こどもの権利等の周知啓発については、こどもの権利条約の内容を記した啓発グッズ（下敷）を小学6年生に配布するほか、子育て情報誌等への掲載を行った。 ・【再掲】小中高校生が市の施策についてワークショップを実施し、市長に提言を行う「みらい政策委員会」を開催。こどもからの提言を踏まえ、公園のトイレの改修や通学路の整備、自習室マップの作成、学校体育館へのエアコン設置に向けた動きなどが進んだ。 ・【再掲】こどもまんなかcityの合言葉「こどもまんなかスイッチ」を様々な媒体やイベントで周知をするほか、こどもや子育てにやさしい取組をする企業や団体を募り、その活動を市全体へ広げる「こどもまん“なかま”」を始動した。 ・各区に「子ども家庭相談コーナー」設置しており、令和7年度は約77,000件の相談を受けており、関係機関と連携しながら、各家庭の状況に応じた支援・対応に努めている。
	2	「周りに自分の意見を伝えられていると思う」こどもの割合 （きちんと伝えられている＋どちらかと言えば伝えられている）	中高生	R5	72.2 %	増加	77.7 %	5.5 P	ー	達成	
	3	「子育てについて悩みや不安を感じている」子育て当事者の割合 （非常に感じる＋やや感じる）	就学前児童保護者	R6	50.4 %	減少	61.1 %	10.7 P	ー	未達成	
			小学生保護者		55.2 %	減少	65.1 %	9.9 P	ー	未達成	
			中高生保護者		68.8 %	減少	62.2 %	▲ 6.6 P	ー	達成	

北九州市こどもプランの令和7年度評価

資料1

	No.	指標	詳細	基準 年度	基準 基準値	目標（R11年度）	直近値（R8アンケート結果・R7事業実績等）	直近値ー基準値	直近値ー目標値（目標が数値の場合）	目標に対する達成状況	令和7年度実績
2	【基本施策2】 魅力的で良質な「こどもまんなかcity」の構築										
	4	市ホームページ「子育てマップ北九州」のアクセス件数	月平均	R5	14,996 件	増加	10,526 件 （R7事業実績）	▲ 4,470 件	ー	未達成	[指標に対する実績] ・子育て情報サイトである「子育てマップ北九州」のアクセス件数は、基準値より4,000件以上減少しており、目標達成に至っていない状況である。 [基本施策の主な取組実績] ・「子育てマップ北九州」については利便性向上を図るため、適宜改修を実施した（放課後児童クラブ詳細ページから施設マップへ移動できるリンクの追加）。 ・子育て支援のサービスや施設の情報をまとめた冊子「こそだて情報」を作成し、区役所などの公共施設のほか、産婦人科や小児科の医療機関等にも配布し、市の取組を広く周知した。 ・授乳やおむつ交換ができる「赤ちゃんの駅」や、市民センターのホール等をこども専用に定期的に解放する「わいわい市民センター」を実施するなど、乳幼児連れの保護者やこどもたちの居場所づくりに努めた。 ・こどもまんなか公園づくりとして、こどもや若者、子育て世代からの意見を踏まえた公園整備を行うため、若者に人気のバスケットボールコートを設置した社会実験や、インクルーシブ遊具の体験会を実施した。 ・登下校中の児童が安全・安心に通学できる環境を整えるため、教育委員会や学校関係者、警察と連携し、通学路の安全対策を推進した。
3	【基本施策3】 デジタルによる迅速で快適・便利な子育て支援の充実										
	5	「こども・子育てに関する情報や手続がデジタル化により便利になっていると感じる」子育て当事者の割合（そう思う＋どちらからといえばそう思う）	就学前児童～中高生の保護者	R6	55.3 %	増加	57.8 %	2.5 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・「こども・子育てに関する情報や手続がデジタル化により便利になっていると感じる」子育て当事者の割合は、基準値より2.5P増加しており、目標を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・令和7年度の「きたきゅう子育て応援アプリ」による妊娠届出は93.8%という高い割合となっている。また、このアプリを活用し、市の子育て情報の発信・ヘルパーオンライン予約・8か月アンケート等手続きの効率化に努めている。 ・クラウド型の給付管理システムを導入し、煩雑であった教育・保育給付にかかる施設側と行政側の双方の事務を効率化。施設側の業務負担を軽減することで、教育・保育の質の向上に注力できる時間や環境を確保した。 ・直営保育所の利用者（保護者）の利便性向上及び職員の業務負担軽減のため、3施設に登退園管理システムを導入した。
4	【基本施策4】 切れ目のない母子保健・医療体制の確保										
	6	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	ー	R5	93.9 %	増加	94.7 % （R7事業実績）	0.8 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・妊娠11週までの妊娠届出者の割合は増加、生後4か月までの乳児家庭訪問の割合及びこどもの健診受診率は、基準値より減少しており、一部目標達成には至っていないが、90%超えの高水準を維持している。 [基本施策の主な取組実績] ・母子の健康づくりを支援するため、妊婦や乳幼児に対する健康診査費用の公費助成や市民センター等の身近な場所での保健師による相談支援などを実施した。 ・妊産婦の育児不安や負担の軽減を図るため、産後の産婦健診や1か月児健診と産後ケア事業との連携を推進し、切れ目のない伴走型支援体制を強化を図った。 ・乳幼児健康診査未受診者に対して、児童虐待につながるおそれのある状況を早期に把握し予防するため、家庭訪問を実施し受診勧奨するとともに、養育に関する相談支援に取り組んだ。 ・市医師会や各医療機関の協力のもと、24時間体制による小児救急医療の提供を行うことができた。
	7	生後4か月までの乳児家庭訪問の割合	ー	R5	97.6 %	維持	96.9 % （R7事業実績）	▲ 0.7 P	ー	達成	
	8	こどもの健診受診率	4か月児	R5	98.7 %	増加	98.2 % （R7事業実績）	▲ 0.5 P	ー	未達成	
			1歳6か月児		98.3 %	増加	97.0 % （R7事業実績）	▲ 1.3 P	ー	未達成	
			3歳児		98.7 %	増加	98.6 % （R7事業実績）	▲ 0.1 P	ー	未達成	

北九州市こどもプランの令和7年度評価

資料1

	No.	指標	詳細	基準 年度	基準 基準値	目標（R11年度）	直近値（R8アンケート結果・R7事業実績等）	直近値－基準値	直近値－目標値（目標が数値の場合）	目標に対する達成状況	令和7年度実績
5	【基本施策5】 幼児期までの成長を保障する幼児教育・保育の充実										
	9	幼児教育・保育施設の満足度 （大変満足＋ほぼ満足）	【幼稚園】 施設・環境	R5	80.5 %	90%以上	87.0 %	6.5 P	▲ 3.0 P	未達成	[指標に対する実績] ・幼児教育・保育施設の「施設・環境」の満足度は、基準値より増加しているものの、目標達成には至っていない。 ・幼児教育・保育施設の「教育・保育内容」の満足度は、基準値より減少しており、目標達成には至っていない。 ・いずれの満足度も90%に近い高い水準を維持している。 [基本施策の主な取組実績] ・保護者の就労形態の多様化に対応するため、延長保育や一時保育、休日保育など多様な保育を提供した。 ・【再掲】保育所等に通っていない6か月～満3歳未満のこどもを対象に月10時間までの範囲で、誰でも利用できる「こども誰でも通園制度」を13か所で実施した。 ・幼児教育や保育の質の維持・向上を目的に、幼児教育センターによる教育面からの支援や社会福祉研修所による保育施設従事者研修を実施した。 ・幼児教育・保育の現場で、豊富な知識・経験等を有した保育者が、高度な研修を積み重ね、特に優れた能力・技能について、北九州市独自の認定証を発行する「北九州市保育マイスター制度」を令和7年度より開始した。今後、保育マイスターが研修会の講師を務めるなど、幼児教育・保育の質の向上を図っていく。 ・幼稚園・保育所に対し、保育人材（幼稚園教諭・保育士）確保を目的に、新規採用者への就職準備金や採用2～3年目の保育人材の処遇改善費用の一部補助を実施した。
			【幼稚園】 教育・保育内容		92.6 %	増加	87.4 %	▲ 5.2 P	ー	未達成	
			【保育所】 施設・環境		80.5 %	90%以上	87.0 %	6.5 P	▲ 3.0 P	未達成	
			【保育所】 教育・保育内容		92.6 %	増加	89.8 %	▲ 2.8 P	ー	未達成	
6	【基本施策6】 自己肯定感やアイデンティティの形成に向けた成育環境づくり										
	10	放課後児童クラブの満足度 （満足＋どちらかといえば満足）	施設・環境	R5	89.2 %	90%以上	76.8 %	▲ 12.4 P	▲ 13.2 P	未達成	[指標に対する実績] ・放課後児童クラブの「施設・環境」の満足度は、基準値より減少しており、目標値を13.2P下回っている。 ・放課後児童クラブの「開所日・開所時間」の満足度は、基準値より増加しており、目標値を1.1P上回っている。 ・こどもが利用する身近な公園の満足度は、基準値より12.5P増加しており、目標を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・希望するすべての児童に対して授業の終了後等に適切な遊び・生活の場を与えて、児童の健全な育成を図ることを目的として、市内129か所の放課後児童クラブを運営した。 ・【再掲】放課後児童クラブでは、学校の長期休暇中の利用者支援を目的に、開所時間の早期化（8時前開所）を進めるほか、令和7年度にはアプリを活用して民間事業者のお弁当を注文・配達する仕組みを全区に展開した。 ・【再掲】こどもまんなか公園づくりとして、こどもや若者、子育て世代からの意見を踏まえた公園整備を行うため、若者に人気のバスケットボールコートを設置した社会実験や、インクルーシブ遊具の体験会を実施した。 ・こどもたちが「なりたい自分」「好きなこと・得意なこと」「興味・関心をひきつけるもの」に出会い、自ら学び考え行動する「生きる力」を育む「北九州みらい探究教室」を実施した。 （集合型：17プログラム、オンライン型：8プログラム） ・学校を長期欠席中の小学生（5,6年生）と中学生の希望者を対象に、将来の社会的自立を目標に、不登校の子どもたちの新たな居場所のひとつとなるよう支援を行う「未来へのとびらオンライン教育支援室」を実施した。 （令和7年度：小学生50名、中学生233名の登録）
			開所日・開所時間		89.4 %	90%以上	91.1 %	1.7 P	1.1 P	達成	
	11	こどもが利用する身近な公園の満足度 （とても満足＋どちらかといえば満足）	ー	R6	53.3 %	増加	65.8 %	12.5 P	ー	達成	
7	【基本施策7】 若者の自立や結婚希望者に対する支援										
	12	「一人の人間として尊重されていると感じる」若者の割合 （そう思う＋どちらかといえばそう思う）	18～39歳本人	R6	76.4 %	増加	78.6 %	2.2 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・「一人の人間として尊重されていると感じる」若者の割合は、基準値より2.2P増加しており、目標を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・「子ども・若者応援センターYELL（エール）」において、社会生活を営む上で困難を抱える若者を総合的にサポート・コーディネートし、若者一人ひとりに応じた自立の応援・支援を行った（令和7年度来所相談者数：1,808人）。 ・結婚を希望する若者に対して、コミュニケーション能力の向上等を目的としたセミナーや出会いの場の創出を目的とした交流会が合体した「コミュラボ」を開催し、若者が自信を持って新たな一歩を踏み出せるよう支援を行った。

北九州市こどもプランの令和7年度評価

資料1

	No.	指標	詳細	基準 年度	基準 基準値	目標（R11年度）	直近値（R8アンケート結果・R7事業実績等）	直近値ー基準値	直近値ー目標値（目標が数値の場合）	目標に対する達成状況	令和7年度実績
8	【基本施策8】 社会的養護が必要なこどもや家庭に対する取組の推進										
	13	「児童虐待（疑い含む）を見聞きしたとき、公的機関や施設に連絡する」者の割合	就学前児童～中高生の保護者、18～39歳本人	R6	75.2 %	78.6%	71.6 %	▲ 3.6 P	▲ 7.0 P	未達成	[指標に対する実績] ・「児童虐待（疑い含む）を見聞きしたとき、公的機関や施設に連絡する」者の割合は、基準値より減少しており、目標値を7.0P下回っている。 ・児童虐待による死亡事案発生は、目標値どおりのゼロを維持している。 ・里親・ファミリーホーム委託率は、令和11年度の目標値を下回っているものの、年度目標は概ね達成しており、増加傾向にある。 [基本施策の主な取組実績] ・「北九州市子どもを虐待から守る条例」を周知し、児童虐待防止への理解を深めることを目指して、出前講演や児童虐待防止推進月間の講座・行事での啓発を実施した。 ・虐待を行った保護者と養育不安のある保護者に対して虐待の再発防止及び発生予防を図るため、「家族再統合コース」「養育不安コース」の二つのプログラムを実施した。 ・家庭での養育が困難なこども等に対して家庭と同様の環境で養育するため、里親やファミリーホームによる養育を推進するとともに、商業施設等での啓発活動や理解促進に向けた説明会を開催した。 ・ひとり親家庭の生活安定に向け、「母子・父子福祉センター」では、ひとり親家庭及び寡婦に対し、相談事業のほか、就業に必要な技能や知識を習得する講座などを行い、自立に必要な知識の習得機会を提供した。
	14	児童虐待による死亡事案の発生件数	ー	R5	0 件	0件	0 件（R7事業実績）	0 件	ー	達成	
	15	里親・ファミリーホーム委託率	3歳未満	R5	13.9 %	75.0%	46.7 %（R7事業実績）	32.8 P	▲ 28.3 P	未達成	
			3歳以上～就学前		29.7 %	75.0%	33.3 %（R7事業実績）	3.6 P	▲ 41.7 P	未達成	
			学童期以降		25.0 %	50.0%	30.2 %（R7事業実績）	5.2 P	▲ 19.8 P	未達成	
	16	家計の状態について「やっていける」と回答したひとり親家庭の割合（十分やっていける＋だいたいやっていける）	母子家庭	R3	30.6 %	35.0%（R8年度）	R8年度に調査実施				
			父子家庭		40.7 %	46.0%（R8年度）					
9	【基本施策9】 障害児・医療的ケア児等への支援やインクルージョンの推進										
	17	障害のあるこどもを受け入れる保育所の施設数	ー	R6	166 施設（全保育所）	維持	166 施設（全保育所）（R7事業実績）	0 施設（全保育所）	ー	達成	[指標に対する実績] ・障害のあるこどもを受け入れる保育所の施設数は、全保育所を維持する中、幼稚園においてもサポート園の数が増加しており、いずれも目標を達成している。 ・医療的ケアが必要なこどもを受け入れる保育所の施設数は、基準値から1施設増加しており、目標を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・様々な特性があるこどもの健やかな成長を支援するため、市独自に障害児に対する保育士の加配を実施した。 ・幼児期における特別支援教育の充実を図るため、「サポート園」として市と事前に協定を結んだ私立幼稚園に対して、特別な教育的支援を必要とする園児の受入に要する費用を支援した。 ・在宅における障害のあるこどもの地域生活を支えるため、市内7箇所の児童発達支援センターにおいて療育指導、相談等が受けられる療育機能の充実を図った。 ・医療的ケアを必要とする在宅のこどもと家族を支援するため、介護負担軽減（レスパイト）のため利用した訪問看護費用の一部を助成した。
	18	障害のあるこどもの受入に取り組む幼稚園（サポート園）の施設数	ー	R5	30 園	増加	37 園（R7事業実績）	7 園	ー	達成	
	19	医療的ケアが必要なこどもを受け入れる保育所の施設数	ー	R6	3 箇所（直営）	増加	4 箇所（直営）（R7事業実績）	1 箇所（直営）	ー	達成	
10	【基本施策10】 成長に応じたヘルスケアや健全育成に向けた支援										
	20	「こどもが健康に成長する環境にあり、多様な体験ができていると感じる」子育て当事者の割合（そう思う＋どちらからといえばそう思う）	就学前児童～中高生の保護者	R6	77.2 %	増加	82.8 %	5.6 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・「こどもが健康に成長する環境にあり、多様な体験ができていると感じる」子育て当事者の割合は、基準値より5.6P増加しており、目標を達成している。 ・子育てふれあい交流プラザの満足度は、基準値の値を維持しており、子どもの館の満足度は基準値から微減となっているものの、基準値に非常に近い高い水準を維持している。 ・非行者率は、基準値から微増しており、目標達成に向けてやや遅れている状況である。 [基本施策の主な取組実績] ・小児の肥満対策を目的に、幼稚園や保育所（園）等において、園児や保護者を対象に栄養士による講話や相談、運動指導員による運動実習など実施。 ・思春期のこどもたちが心身の変化を正しく理解し、相手や自分自身の心と体を大切にする健康教育を推進するため、医療・学校・地域・行政等の関係者による連絡会を開催し、協議の結果等を踏まえ、全小学校4年生・特別支援学校を対象に思春期の健康教育を効果的に実施した。 ・「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」を中心に、地域団体、関係機関等と連携を図り、非行防止の夜間パトロールを実施したほか、警察OBを活用した街頭補導を行い、少年の健全育成に向け、非行の未然防止に努めた。 ・非行歴のある青少年の就職促進や、その受け皿となる協力雇用主の拡充を、福岡保護観察所と協働しながら図っている。
	21	子育て支援施設の満足度	子育てふれあい交流プラザ	R5	99.9 %	維持	99.9 %（R7夏休みアンケート）	0.0 P	ー	達成	
			子どもの館		99.9 %	維持	99.5 %（R7夏休みアンケート）	▲ 0.4 P	ー	達成	
	22	非行者率（10～19歳の少年1000人あたりの検挙補導人員数）	ー	R5	4.6 人	減少	5.1 人（R7事業実績）	0.5 人	ー	未達成	

北九州市こどもプランの令和7年度評価

資料1

	No.	指標	詳細	基準 年度	基準 基準値	目標（R11年度）	直近値（R8アンケート結果・R7事業実績等）	直近値ー基準値	直近値ー目標値（目標が数値の場合）	目標に対する達成状況	令和7年度実績
11	【基本施策11】 子育てを支援するシニアや地域人材の育成										
	23	「子育てが地域の人に支えられていると感じている」子育て当事者の割合（とても感じている＋どちらかと言えば感じている）	就学前児童保護者	R5	46.8 %	50.0%	50.0 %	3.2 P	0.0 P	達成	[指標に対する実績] ・「子育てが地域の人に支えられていると感じている」子育て当事者の割合について、就学前児童及び小学生の保護者は、基準値より増加している一方、中高生保護者は基準値より減少している。目標値に対してはいずれも下回っている。 [基本施策の主な取組実績] ・シニア世代が家庭や地域において子育てを支援する機会を増やすため、今どきの子育てに関する情報をまとめた「祖父母手帳」を作成し、区役所や市民センター等に配布した。 ・子育て経験が豊富なシルバー人材センターの会員が、子守、保育所等への送迎、保育補助、産前産後の家事援助等を行い、子育て家庭を支援した。 ・乳幼児の親同士が交流を通じて自主的な活動を行えるよう、育児サークルや自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援し、地域で子育てをしやすいシステムづくり・仲間づくりを後押しした。 ・市民センター等において子育てイベントの実施や保護者の相談相手となる「子育てサポーター」を養成（令和7年度登録数1,446人）し、子育てネットワークの構築を図った。
			小学生保護者		57.7 %	65.0%	59.2 %	1.5 P	▲ 5.8 P	未達成	
			中高生保護者		49.6 %	55.0%	38.6 %	▲ 11.0 P	▲ 16.4 P	未達成	
12	【基本施策12】 子育て世代の経済的負担の軽減										
	24	子育ての悩みのうち「子育ての経済的な負担が大きい」と回答した割合	就学前児童保護者	R5	26.2 %	減少	24.3 %	▲ 1.9 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・子育ての悩みのうち「子育ての経済的な負担が大きい」と回答した割合は、就学前児童及び中高生の保護者では基準値より減少しており、順調であるが、小学生保護者では基準値から増加しており、目標達成に向けてはやや遅れが見られる状況である。 [基本施策の主な取組実績] ・次世代の社会を担うこどもの健やかな育ちを支援するため、0歳から18歳までの児童を養育している者に対して児童手当を支給するほか、物価高騰の影響を受ける子育て世帯を支援するため、令和8年2月から「物価高対応子育て応援手当」を順次支給した。 ・妊娠・出産に伴う身体的・精神的・経済的負担の軽減を図り、妊婦及び胎児であるこどもの保健・福祉の向上を図るため、妊婦支援給付金を支給した。 ・【再掲】市独自の取組として、経済的負担の大きい多子世帯の子育てを支援するため、生計を同一にしているこどもで、きょうだい児の年齢に関わらず、第2子以降の保育料を無償化。令和7年度からは「幼稚園の2歳児保育における保育の必要性があるこども」を新たに対象とした。
			小学生保護者		25.3 %	減少	28.2 %	2.9 P	ー	未達成	
			中高生保護者		46.7 %	減少	33.8 %	▲ 12.9 P	ー	達成	
13	【基本施策13】 共働き・共育てができる社会づくり										
	25	就学前児童保護者が仕事のある日に父親が家事・育児を2時間以上している割合	家事時間	R5	15.9 %	増加	20.6 %	4.7 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・就学前児童保護者が仕事のある日に父親が家事・育児を2時間以上している割合は、「家事時間」が基準値より4.7P増加しているが、「育児時間」は基準値よりも7.7P下回っている。 ・「ワークライフバランスが取れている」と思う割合は、基準値より4.1P増加しており、目標値を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・【再掲】保護者の就労形態の多様化に対応するため、延長保育や一時保育、休日保育など多様な保育を提供した。 ・【再掲】「子育てを手伝ってほしい方」と「子育てを手伝ってくださる方」による相互援助活動「シン・子育てファミリー・サポート事業」を推進。令和7年度は、子育てと仕事の両立で負担が大きくなる育休復帰前後の期間をサポートするため、対象期間の利用料金を無料とし、さらに使用しやすい仕組みにグレードアップした。 ・男性の育児休業取得を促進するとともに、誰もが仕事と家庭を両立しやすい職場環境整備を促進するため、市内の中小企業等を対象に、初めて男性社員が育児休業を取得した場合に、企業に対して奨励金を交付した。 ・仕事と子育て等との両立や働きやすい職場環境づくりへの理解促進を働きかけるため、企業等に対するアドバイザー派遣や出前セミナーの開催、パパ育休セミナーの動画配信を実施した。 ・「男女共同参画センター」では、男性が家事や子育て等に参画し家庭での役割を積極的に果たせるよう、様々な講座を実施した（延べ654名が参加）。
			育児時間		34.3 %	増加	26.6 %	▲ 7.7 P	ー	未達成	
	26	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が取れている」と思う割合（調和がとれている＋どちらかというと調和がとれている）	就学前児童～中高生の保護者、18～39歳本人	R6	62.8 %	増加	66.9 %	4.1 P	ー	達成	

北九州市こどもプランの令和7年度評価

資料1

	No.	指標	詳細	基準 年度	基準 基準値	目標（R11年度）	直近値（R8アンケート結果・R7事業実績等）	直近値ー基準値	直近値ー目標値（目標が数値の場合）	目標に対する達成状況	令和7年度実績
14	【基本施策14】 DEI（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン）の推進										
	27	母親の就労割合 （フルタイム＋フルタイム（休業中）＋パート・アルバイト＋パート・アルバイト（休業中））	就学前児童保護者	R5	71.3 %	増加	80.2 %	8.9 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・母親の就労割合は、全区分において基準値より増加しており、8割を超える状況である。 ・母親のフルタイム就労（休業中含む）の割合も、全区分において基準値より増加しており、目標を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・女性の職業生活における活躍をワンストップで総合的に支援する「ウーマンワークカフェ北九州」を運営し、多くの方の就職を支援した（令和7年度就職決定者595人）。 ・家庭と仕事の両立や勤務時間の制約など女性特有の課題に対して、様々なセミナーを開催し多様な働き方を提示するとともに、未就業女性と企業の交流会の開催や働く女性のキャリア形成支援など、多方面から「女性のはたらく」を応援した。
			小学生保護者		78.0 %	増加	80.1 %	2.1 P	ー	達成	
			中高生保護者		78.0 %	増加	82.9 %	4.9 P	ー	達成	
	28	母親のフルタイム就労（休業中含む）の割合 （フルタイム＋フルタイム（休業中））	就学前児童保護者	R5	43.9 %	増加	50.1 %	6.2 P	ー	達成	
			小学生保護者		40.2 %	増加	42.3 %	2.1 P	ー	達成	
			中高生保護者		38.2 %	増加	47.1 %	8.9 P	ー	達成	
15	【基本施策15】 若者のチャレンジ支援や人材育成										
	29	「北九州市には若者のチャレンジを応援する社会風土や環境があると感じる」若者の割合 （そう思う＋どちらからといえばそう思う）	18～39歳本人	R5	27.0 %	増加	29.9 %	2.9 P	ー	達成	[指標に対する実績] ・「北九州市には若者のチャレンジを応援する社会風土や環境があると感じる」若者の割合は、基準値より2.9P増加しており、目標を達成している。 [基本施策の主な取組実績] ・若者のキャリア形成や将来の市内就職の促進に向け、「仕事」と「学び」をテーマとした体験・交流イベント「北九州ゆめみらいワーク」を開催。1万人以上が来場し、将来の選択肢を広げる機会を提供した。 ・「日本一若者を応援するまち・北九州市」の実現に向け、若者から独創的なアイデアを募集する「Z世代はみ出せコンテスト」を開催。コンテストで選ばれたアイデアに対して専門家等が実行まで伴走支援することで、若者の挑戦を後押しした。